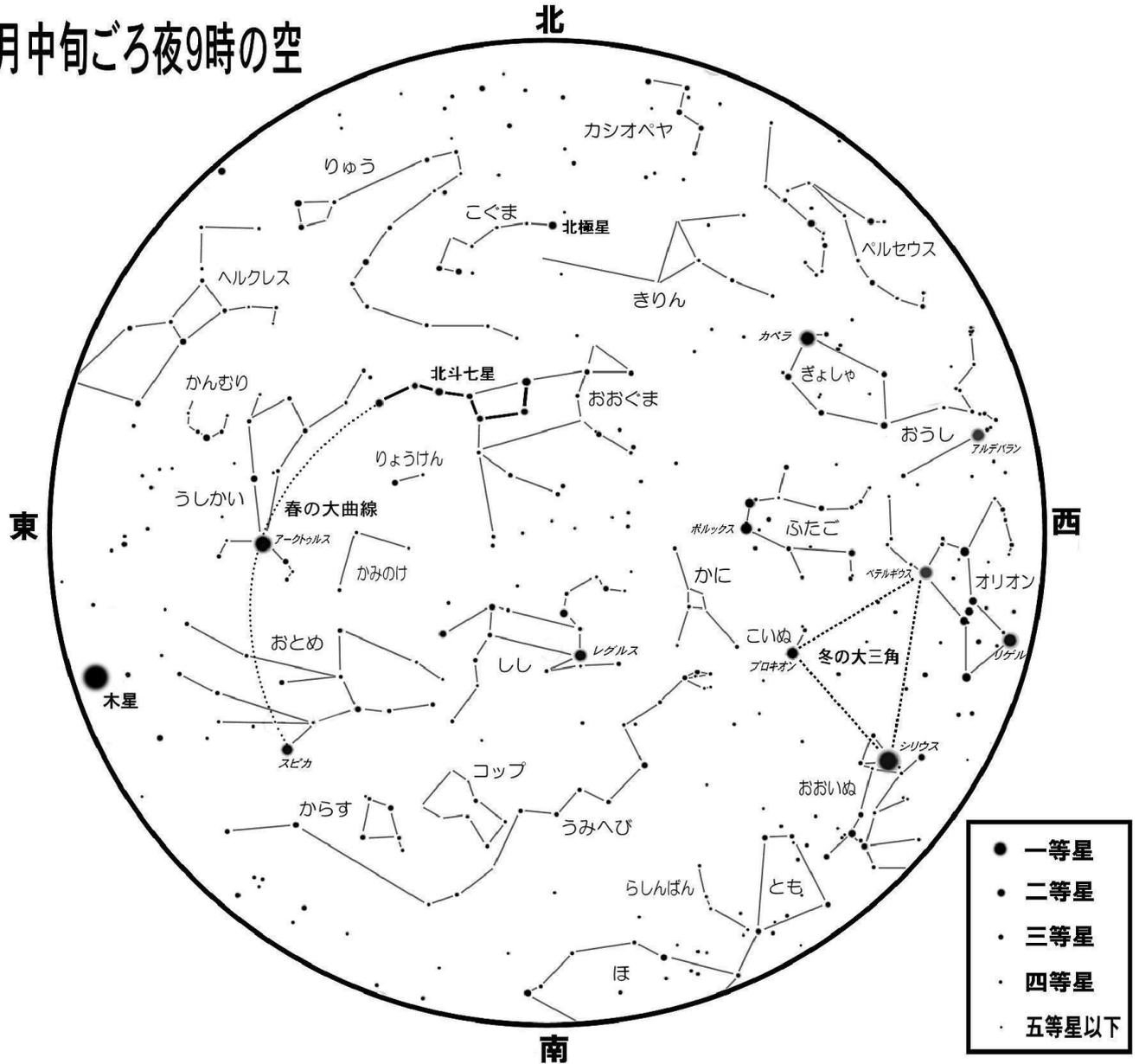


# 阿南市科学センター 4月の星空案内

4月中旬ごろ夜9時の空



四月に入り、気候も良くなり夜も星が見やすい時期となりました。残念ながら春先は大陸からやって来る黄砂の影響で、晴れても何だか星がすっきり見えないということがあります。そのため、星たちは冬に見られた鋭い輝きはないものの、すっきりとしない分、星の光がやわらかく見え、気候と同じく、ほんわかした感じで星を楽しむことができるでしょう。

さて、この時期、目立つ星の並びといえば、頭の上近くに見える「北斗七星」です。北斗七星を見つけたら、上の図を参考に、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカへと続く「春の大曲線」もつけてみましょう。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

# 4月の月と惑星

## 月の満ち欠け

月の形	☾ (下弦の月)	● 新月	☽ (上弦の月)	○ 満月
見える日	8日	16日	23日	30日

## 惑星

	水星 ●	金星 ●	火星 ●	木星 ●	土星 ●
上旬	太陽に近く観察困難				
中旬	日の出前、東の低空に見える (4.4→1.7→0.7等)	日没後、西の低空に見える	明け方、南の空に見える (0.2→0.2等級)	午後10時ごろ東の空に見える (-2.4 → -2.5等級)	明け方、南の空に見える (0.2等級)
下旬					

## 天文館夜間天体観望会 4月の見もの天体 ~おおぐま座のM82~

春の時期の夜は、多くの星雲・星団が存在する天の川がほとんど見られない方向を向くことから、他の季節に比べて、見やすい大型の星雲や星団はほとんどありません。そのかわり、春の夜空は多くの銀河、つまり私たちの天の川銀河の外にある天体を見ることが出来ます。もちろん、銀河の多くは小さくて淡く、小さな望遠鏡での観察には少々厳しいものがありますが、存在はわかる銀河もいくつかありますので、今回はそのひとつおおぐま座の銀河「M82」をご紹介します。

この「M82」は、その様子から別名「葉巻銀河」とも呼ばれ、すぐ近くにある「M81」という銀河の大きな重力を受けて、形が変形しています。小さな望遠鏡でも空の暗いところで観察をすると、中心近くがでこぼこしているのがわかり、少し大きな望遠鏡になると、その濃淡まではっきりと見えるようになります。



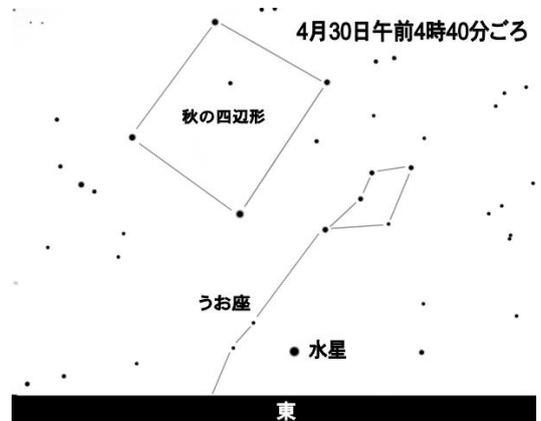
## 今月の天文現象

### 4月30日 水星が西方最大離角

全部で8個ある太陽系の惑星のうち、いちばん観察が難しい惑星は水星とされています。普通に考えると、いちばん遠くにある海王星だと考えがちですが、海王星はその位置さえわかれば、小さな天体望遠鏡でも十分に観察は可能です。では、なぜ水星はいちばん観察が難しいのでしょうか。その理由として水星は太陽に近いところを回っており、地球からの見かけ上、太陽からあまり離れることがありません。つまり、いつも太陽に近いために天体望遠鏡を水星に向けても、太陽の強烈な光が邪魔をして、その存在が確認しづらいのです。また、そのような水星を無理に観察しようとすると、誤って太陽を見てしまう可能性もあり、下手をすると失明の危険があるのです。

しかしながらそのような難物である水星も、最大離角と呼ばれる時期を狙えば、太陽からある程度離れていますので観察はしやすくなります。

今月30日、水星は観察しやすい最大離角となります。早起きをして、明け方4時40分ごろ、真東の低空5度くらいを探してみましょ。もし、東の低空まですっきりと晴れていれば、0.5等級の水星がキラッと見えるはずですよ。



天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600